

市長と語る

懇

亀山の過去・現在・未来を考える

談



亀山市総合環境研究センター長
亀山市民大学キラリ学長
三重大学人文学部・地域イノベーション学
研究科教授

朴 恵淑

亀山市長

櫻井 義之

司会 坪田公兒（亀山市総合環境研究センター事務局長）

○平成 28 年 1 月 15 日（金）

司会

皆様、こんにちは。忙しいところ、亀山市総合環境研究センター企画の懇談に時間を頂戴しましてありがとうございます。

このたび、3月1日付で「亀山学」発刊の運びとなりました。朴恵淑センター長より櫻井市長に報告をして頂きます。次に当センターが担っております人材育成事業「亀山市民大学キラリ」平成28年度の進め方について懇談して頂き、最後に朴センター長が12月に開催されたCOP21に参加されましたので、簡単な報告をしていただきます。どうぞよろしくお願い致します。早速ですが、朴センター長からどうぞ。

朴センター長

今年も市長、どうぞよろしくお願い致します。

櫻井市長

こちらこそよろしく申し上げます。

朴センター長

大変お待たせしましたが、「亀山学」が、3月1日発刊の運びとなりましたのでご報告します。今、私の手元にありますのが初稿でして、第2稿で手直ししたものが来ることになっておりますが、236頁になりました。表紙は、著者の名前と写真等がこのような形に配置されます。

櫻井市長

すごいですね。センターが亀山と関が合併した年に設立され、先生に来ていただいて、環境から始まり、文化、健康福祉と分野を広げていただきました。この本は、この10年余のセン

ターの歩みを凝縮したようなものですね。楽しみに完成を待っております。

朴センター長

そうですね。センターが設立されたのは、平成17年ですから、10年が経ちましたね。

櫻井市長

お忙しい中、まとめていただいて、ありがとうございます。

朴センター長

いいえ。初版が平成27年度の最期になってしまいましたが、これが終わりではなく、新たなスタートを切る「亀山学」だと考えています。2年後くらいには、「亀山市民大学キラリ」や「かめやま環境市民大学」で育てた方達が半分以上を執筆していただき、市民自らが作った「亀山学第2巻」の出版を考えています。

櫻井市長

なるほど。期待しております。

朴センター長

平成28年度の「亀山市民大学キラリ」の進め方としまして、第1回は6月が環境月間ですので、テーマは環境とし、経済と環境のバランスの取れた持続可能な社会としての亀山という内容で、もう一度リニア新幹線を取り上げたいと思っています。5月26、27日に伊勢・志摩サミットが行われた直後でもあり、地域創生が最も注目されると思われまますので、リニア新幹線と亀山駅のことを市長、推進団体関係者、リニア新幹線の関係者の方々をお招きして、伊藤達雄先生の基調講演とパネルディスカッションを実施したいと考えています。秋には、理学博士の川戸佳先生をお招きして健康福祉

に関する特別講演会を予定しております。それについて、市長の希望や、ご意見を伺いたいのですが。

櫻井市長

その二つの企画で進めていただければ良いと思います。リニア新幹線の亀山駅誘致は、長い運動、四半世紀になりましたし、亀山は行政主導でもなく、経済界とか各種団体と市議会も含めて、市民会議という推進母体で進めてきました。そのような沿線都市は他にないので、そういう意味では亀山流の四半世紀にわたる長い町づくりとか地域づくりの運動です。東京～名古屋が11年後に動き出すので、もう夢の段階から実用の段階に入ってくるのですが、名古屋から大阪が2045年と約30年も先なので、できるだけ早く名古屋からの事業化が決まって、30年後といわずにもっと早く出来るような運動を考えなければと思っておりますが、亀山だけでは力不足ですから、関係機関、三重県、市や経済界や各種団体、皆の連携がうまくまきこんだ雰囲気作りが大事なので、そのような場にしていいただければと思います。亀山だけが元気をだしても、おもしろくないという方も居られますので、和やかな雰囲気の中のできるように。

朴センター長

皆が幸せを感じるような流れの中で、亀山を考える場にするということですね。

櫻井市長

そうですね。先行される東京～名古屋間でも、推進を強く願う推進派や経済界の方々も居られる一方で、そうでない方々も居られます。これはどこでも、いつでもついて回るもので、そういうことを含めて、全体が理解を深める場が

必要かと思うので、もう一度リニア新幹線をテーマにするのは良い事だと思います。

朴センター長

ありがとうございます。亀山ならではのものは、何があるのかなと考えた時に亀山だけのことでなく、日本全体の活性化を考えるなかで、亀山は昔から交通の要衝であり、それは今も変わらず、これからも未来においても同じであり、新幹線に代わる大動脈としてのリニア新幹線に亀山がついてくるとするのは、ロマンであり夢物語でもあるが、夢だけではない、亀山の未来について皆で考える場にしたいと思います。

櫻井市長

新名神高速道路の本線が平成30年に亀山と四日市間で開通します。リニア新幹線もそうですが、亀山は今も未来も交通の要衝としての役割を担っていくという、小さいながらも大事な役目を担っています。リニア新幹線や新たな高速道路網を皆が考える機会の場にもなれば、ありがたいです。

朴センター長

ご期待に添えるような企画をいたします。

櫻井市長

よろしくお願いします。

朴センター長

続いて、人を育てるということですが、今年の11月30日から12月12日まで、フランスパリで国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）が開かれたのですが、その中で今回、大きく、三つの定義が出てきました。一つは若者で、若い世代をどうするの、教育も含めて。二つ目が女性、今までは圧倒的に

男性が多かったのに、いろんな場面で女性が目立っていました。三つ目が地方自治体、地方から国や世界に向けて多くの提案がなされていました。会議を通して、若者、女性、地方自治体という三つの言葉が今までにない頻度で、はっきりなしに出てきたという印象を受けました。その後、ユネスコに行ってきましたが、ユネスコのアジア太平洋地域の事務局が韓国の光州に決まったと聞きました。私の思い過ごしかもしれませんが、地方からという流れを汲んだのかなと思いました。ユネスコスクールは環境、防災、人権問題、国際交流など、何でもOKなので、ローカルからグローバルへという流れのなかで、亀山が、小学校、中学校、高等学校の全学校をユネスコスクールとして登録し、世界へ繋がる教育をアピールするというのはどうでしょうか。

櫻井市長

ここ何十年間の日本の教育、学校が、色々な事をやりすぎて、本当に、抑えないといけないものと余分な話が沢山有りすぎて、実は亀山は、自立して、国や県のいう教育とは違う、地に足を付けた愚直に教育をしているが、それでも余分な事をやりすぎているので、それを少し取り払う作業を、現時点でやる必要が有ると思うのです。そういう意味で、シンプルに亀山の教育を再構築しようという取り組みを、教育長が、頑張っているんで、その判断を尊重したいし、行政としてはその環境を整えたいと思っています。

朴センター長

市長がリーダーシップを取っていらっしゃる「かめやま文化年」は素晴らしいプロジェクトですね。文化には色々なものがありますし、人間が生きる場面には、なくてはならないものだ

と思います。例えば、ミュージカルとか歌とか、市長も歌われる第九とかも人間だからこそ出来るのであり、そこから一体感が生まれてくるし、皆が一緒にならないと出来ないことだと思うのですが、この文化年はこれからも続くのですか、テーマは毎回変わるのですか。

櫻井市長

3年に1回、テーマを決めて開催します。初年度が2014年なので次は2017年です。今のところは2020年までですが、未来永劫続けていってもらいたいと願っております。

朴センター長

10年前に亀山に来た時、立派な文化会館が有り、次から次に予約で一杯になると聞き、驚きました。亀山は、このような文化施設で人を育てているのだと感心しました。その当時の市の職員の方が子供のころ、合唱団に入っていたと聞きました。

櫻井市長

当時の亀山の少年少女合唱団は、5～6年に1回、アメリカやイタリアや中国に遠征していました。

朴センター長

その方、感性が違っていましたね。やはり、人は、文化、歴史に誇りを持って育つことは、重要ですね。

櫻井市長

本当にそのとおりです。

朴センター長

人を育てるといふ観点から見た時に、あらゆる物がうまくミックスして繋がっていけば、こ

こで子育てしたいとか、幸せナンバーワンの町、WHOにも入っているクオリティオブライフ（QOL）、そうしたものが、亀山で出来るという成功事例を感じることができました。子供の時から色々な体験をされている方々が社会の中心になっておられますので、今後の市民大学キラリは、地元の方々を講師として、いっしょにやっていくような仕組みを考えたいと思っております。

櫻井市長

教育や、若者や女性の人作りや、活躍出来る環境整備が必要ですし大切だと思っています。亀山市は、市民活動などで、女性の皆さんが活躍しているし、女子師範学校が在った流れで教育に対する思い、次の世代に伝えたいという思いも強いですし、女性が輝いて生きていくのは大事な事だと思っています。今までも若者を重視して、定住促進を頑張ってきたのですが、さらに今年からパワーアップして着手していきます。先生が言われた親から子へ、子から孫へ、歴史もそうですが教育も含めて、社会が循環して繋がっていくためには、たまたま昨日、作家の村松友視さんの「老いる」というコラムが毎日新聞に載っていました。その中で、年齢を重ねて、それが年輪となって、味わいのあるシニアとなっていく、という大事な部分を、当時、世界最高齢の泉重千代さんに理想の女性像はどうですかと問うと、泉さんが年上の女性だと答えた。という話を一つのたとえとして、村松さんは、年を重ねると独特の味わいが有るといふ年の重ねかたが大事だよ、と伝えようとしている。これも素敵な先輩から若者への継承、循環の形かなと感じます。

朴センター長

ロールモデルとよく言われますが、ロールモ

デル以上の努力をしないと成れないし、自分で作るのよと学生には教えています。女性とか男性とか関係なく、互いが協力しながら、互いの強いところを活かすパートナー、弱いところを補ってくれるパートナー、そういった成熟した社会になっていくためには、経験豊かな方の生き方も参考になってくるが、最近では、確実に出来る事以外は絶対に手を付けない学生が多くて、必要な時に背中を押してくれる人がいないのかなと考える部分があります。

櫻井市長

日本の風土、地域社会で、男女の役割分担の意識は、静かに変化が始まっていることに期待しています。

朴センター長

そうですね。ところで、COP21のワークショップで、私が関係している所があって、1分間の時間を頂いたので、AKPについて発言しました。皆さん、すごく関心を持ってくれま

した。5万人の環境活動ポイント制度の話題で大いに盛り上がりました。

櫻井市長

先生にお世話になって、センターで取り組んでいただいたこと、市民大学キラリ、そういう積み上げが合併以降の亀山の町づくりの土台に成ったし、AKPもそうですし、レジ袋削減も、市民の意識が高まったから出来たということで、先生には本当に感謝しています。

司会

お話しは尽きないと存じますが、そろそろ終わりの時間です。

朴センター長

今日は本当にありがとうございました。有意義な時間をいただきました。

櫻井市長

こちらこそ、お忙しいところありがとうございました。

